

令和3年9月1日

保護者 様

東彼杵町立千綿小学校

校長 吉永 信一郎

「お茶うがい」によるコロナ感染予防対策の実施について

残暑の候、保護者の皆様には、ご清栄のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本県ではコロナ感染がこれまでにない規模・速度で拡大しています。子どもたちへの感染リスクも急拡大しており、直近の10代以下の感染者数はこれまでで最も高い状況です。ワクチン接種について、学校職員はすでに2回の優先接種を終えていますが、子どもたちは無防備に近い状態であると言えます。学校においては、集団感染を起こさないことを最重要課題として取り組んでまいります。

つきましては、校内で感染拡大を起こさないための取組として9月から準備が整い次第「お茶うがい」を実施いたします。東彼杵町の特産である緑茶にはビタミン類やカリウム、カフェインなど多くの成分が含まれています。その中でもカテキンはウイルス対策に有効だと言われており、「お茶を口にしばらく含んでから飲む」ことで、口から出る飛沫のウイルスによる感染を減らし集団感染を予防することが期待されます。

なお、「お茶うがい」につきまして、「飲ませたくない」もしくは「お茶うがい自体をさせたくない」というご家庭がいらっしゃいましたら、担任まで御連絡ください。また、実施の有無によって、差別・偏見にならないよう十分事前指導を行います。

各ご家庭においても、家庭内感染の防止にお努めいただき、子どもたち及びご家族の皆様の命と健康を守るためにも、ご理解とご協力をお願いいたします。

日本農業新聞 令和3年6月15日
(日本経済新聞にも同様の内容の記事が掲載されました。)

茶カテキン コロナ不活化

緑茶などに含まれるカテキンが、試験管内で人の唾液に含まれる新型コロナウイルスの感染能力を低下させる不活化の効果があることを確認したと、京都府立医科大が発表した。

口から感染抑制に期待

お茶を飲んでもカテキンは血液中にはほとんど吸収されないため全身への効果は期待できないが、口内にあるウイルスの感染能力を抑える効果は期待できるといふ。

同大大学院の松田修教授らが伊藤園中央研究所と共同で研究。成果は今月、欧州の科学誌2誌に掲載された。

発表によると、試験管に健康な人の唾液と新型コロナウイルスを入れた上で茶を加えたところ、10秒ほどで不活化が確認された。

京都府立医科大発表

研究では変異株での効果は検証していない。研究グループは軽症のコロナ患者で臨床実験を行っており、年内にも結果公表を目指す。

た。ウイルスが細胞に侵入する際に結合するスパイクタンパクに、カテキンが先に結びつくことで侵入を防いだという。

松田教授は「お茶を10秒ほど口に含んでから飲むことで、飛沫(ひまつ)感染が少なくなっ